

大学実務家教員養成コース修了認定者のうち大学・短大教員希望者

No.	氏名	年齢	最終学歴	学位	資格・修了証	現職	企業・法人等 経験年数	所属学会	主な専門分野	著書・論文 調査分析資料	私が目指す 大学教員	自らの実務経験を大学教員として活かせると思うこと	希望職位
5	H. O	52歳	2007年 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻 博士課程 修了	修士(農学) 博士 (生命科学)	食品衛生監視員任用資格 食品衛生管理者任用資格 環境衛生監視員任用資格 インタラクティブ・ティーチング 認定(IRA Fundamentalレベル) 大学実務家教員養成コース G検定 (DX推進パスポート1)	大手電機メーカー、幹 部職、スペシャリスト	27年	日本農芸化学会会員 日本蛋白質科学会会員 日本分子生物学会会員 化学工学会会員	① ライフサイエンス (生命科学) 分子生物学・タンパク質工学を基礎に、研究基礎技術の開発から産業応用までを一貫して活動。 ② 健康科学・公衆衛生 (Well-being、感染症対策、環境衛生、食品分野) 感染症対策や環境衛生分野において、非薬物的介入を含む人々の健康と生活の質向上に資する研究・実証を推進。また食料問題等の社会課題をターゲットに食と健康分野における新規事業を推進。 ③ 医療・診断技術 (トランスレーショナルリサーチ、医工連携) 基礎研究成果を臨床研究・診断技術へと橋渡しする医工連携・医療連携研究を多数経験。 ④ 研究成果の社会実装・事業化 (産学官連携、知財・規格対応) 研究成果を事業・制度・社会実装へ展開する産学官連携、知財・国際規格対応を実務として担当。	ライフサイエンス、健康科学、医療・公衆衛生分野を中心に、基礎研究から社会実装までに関する研究成果を、学術論文・総説・学会発表・特許等として継続的に発信してきました。 実績として、査読付き学術論文37報、日本医誌等6報、学会発表52件、セミナー講師7件、著書1編、国内外特許50件以上となっており、研究成果の産業化・制度化・社会実装につながるアウトプットを行ってきました。	私が目指す大学教員像は、ライフサイエンスおよび健康科学等の専門性を基礎として、学生が自身の学びを社会課題の解決や人々の健康や生活の質 (Well-being) の向上にどのようにつなげられるのかを考え、行動できるよう導く実務家教員です。 研究および企業での実務を通じて、専門知識や技術は、それ単体では社会に十分な価値をもたらさず、人間の行動や社会的背景、制度や規制性を踏まえて初めて活かされることを実感いたしました。こうした経験を教育に反映し、専門知を社会の文脈で捉え直す視点を学生に身につけさせたいと考えております。 授業においては、経験による知識伝達にとどまらず、実社会の事例や課題を題材としたPBLやケーススタディを積極的に取り入れ、学生が主体的に問いを立て、他者と協働しながら解決策を構想・提案する力を育成したいと考えております。正解のない課題に向き合う経験を通じて、変化の激しい現代社会においても自ら考え続けられる人材の育成を目指します。 また、学生一人ひとりが自らの専門性と将来のキャリア、社会との関わりを結びつけて考えられるよう、個々の関心や強みに寄り添った指導を行いたいと考えております。大学での学びが、卒業後の進路や社会貢献へにつながる実感を持ってよう支援することも、大学教員として重要な役割であるかと考えます。 これらを通じて、専門教育と社会との接点を意識した教育を実践し、大学が今後さらに知を社会に開く礎としてその機能を高めていくことに貢献したいと考えております。	1) 専門分野 (ライフサイエンスの社会実装論) ・ライフサイエンス、食品科学、医薬、医療、環境衛生・公衆衛生分野において、基礎研究から応用研究、さらに社会実装・事業化までを一貫して経験致しました。 ・大学教員として、理論や研究成果を社会で「どう使われるか」「なぜ実装が難しいのか」という実務的視点を加えた教育・研究指導が可能です。 2) 学生指導 ・学生が自身の専門性を、社会や人々の暮らし、Well-beingの向上にどのように貢献できるかを考えられるよう導く指導を重視したいと考えております。 ・実社会での成功や失敗の事例を共有することで、学生が自らの学びを現実の課題と結びつけて考える力を育てたいと思います。 3) 教育 ・専門分野の知識を社会課題と結びつけて考える力を育てることを重視し、実社会の事例を用いたPBLやケーススタディを通じて、学生が主体的に課題を設定し、蓄積して解決策を提案する教育を行いたいと思います。 ・実務家教員養成コースで修得した教育手法を活かし、能動的学修を重視した授業設計を行います。 4) その他 (大学教員に活かせる実務で体験した出来事) ・技術的に優れていても、人々の理解や社会的背景が考慮されなければ普及しない事例を数多く経験してきました。この経験から、大学教育においては「人間を理解する視点」と「社会との接続」を重視することが不可欠であると考えております。	常勤・非常勤